

レモン生産量1万トン(H32)に向けた長期貯蔵の取組

農林水産局 販売推進課 柳生 哲 希

レモンの周年出荷に向けた体制整備を図るため、販売推進課と農業技術センターが連携して、露地レモンの出荷が少なくなる4月末から9月までのレモンの長期貯蔵の取組に対する支援を行い、貯蔵先の確保など次年度以降に向けた出荷体制を整備した。

1 事業の概要

1) 取組の内容

県では、平成25年度にレモンの長期貯蔵の取組へ補助金を交付する事業を実施した。

「広島ゆたか農協」が長野県の「あづみ農協」等との連携の枠組みを構築し、この事業を活用して、4月下旬から長野県や兵庫県で合計約110トンのレモンの長期貯蔵を行った。

なお、来年度以降の実用的な貯蔵方法を検討するため、「広島ゆたか農協」と農業技術センターが連携して温度等のデータの収集を行っている。



長野県での貯蔵の様子



2) 取組の結果

今回の長期貯蔵の取組によって、県外での貯蔵先を確保するとともに、4月末から7月末までのレモンの貯蔵体制を整備することができた。

2a 一方で、8月・9月は腐敗率が高く、現行の貯蔵方法では出荷が困難という課題が明らかとなった。

2 今後の取組

農業団体、農業技術センター及び販売推進課が連携して貯蔵データの検証を行い、8月・9月の出荷を可能とする長期貯蔵方法を検討し、広島産レモンの周年安定供給体制の構築を図る。

今回、長野県で長期貯蔵が実施されることを機に、「広島ゆたか農協」と「あづみ農協」間で協定が締結されており、既にみかん、レモンとリンゴを活用したジュースの商品化が行われた。

今後は商品開発にとどまらず、幅広い分野で果実産地間の連携を通じた地域の活性化に期待したい。



あづみ農協での選果の様子



両組合長と地元卸売業者が握手



記念発売されたジュース